

## 九州大学ビジネス・スクール 平成23年度入学生募集活動

今年もQBSでは平成23年度入学生募集に先立ち、沢山の入試関連のイベントを開催いたしました。

特に2011年春の九州新幹線全線開通に伴い、QBSでは2011年4月より新博多駅ビルにて「QBS新博多駅教室」を開設、平日(月～金)夜開講します。これにより県内外からの利便性も一層向上することを睨んで、熊本市・北九州市でも大学説明会を行いました。

各大学説明会では、QBSの概要・入試に関する説明・教員による模擬講義・在校生、修了生によるパネルディスカッションを行い、活気あふれる説明会となりました。

## 各大学説明会の開催日、参加人数は下記の通りです。

- ・大学説明会(福岡市・アクロス福岡円形ホール) 8月20日 72名
- ・熊本会場(熊本市・くまもと県民交流館パレア会議室7) 8月27日 34名
- ・北九州会場(北九州市・北九州国際会議場第11会議室) 9月3日 26名
- ・中国・大連会場(中国・大連市) 9月12日 80名
- ・オープンキャンパス(九大箱崎キャンパス) 9月18日 49名



中国・大連会場



オープンキャンパス



北九州会場



大学説明会



熊本会場

## 在校生紹介

市川 克さん(7期生)  
所属  
パナソニック  
システムネットワークス(株)

「日本電器メーカーの技術力は高いがビジネスに弱い」という言葉をよく耳にし、その理由、そして解決策を見出さたくビジネススクールに興味を持ったのがスタート。

QBSの生活は「学びを仕事に活かし、仕事を学びに活かす」の連続。つい目の前の仕事に対して、その本質を考えず「進めるだけの作業」になりがちな自分の姿を、夜の大学の授業で扱う成功者のケースを基に、冷静に見つめ直すことができる。そして次の日、学校での気付きを仕事へ落とし込む。このようなダイナミックな行動を取れるのは、まさにQBSの強みであると感じる日々。個人では絶対できなかったことだ。

大学で得た気付きの1つが「顧客視点の重要性」。弊社創業者である松下幸之助の言葉にも同じ意味の言葉が多くあるが、その重要性を組織の中からではなくQBSから気付かされたことは、非常に驚くことであつたと同時に、これからビジネスを成功させる上で最大の気付きになると確信している。

神野 寛文さん(8期生)  
所属  
九州旅客鉄道株式会社

私がQBSに入学したいと思いはじめたのは、社会人5年目の昨年9月。

その頃の私の生活はというと、平日は会社に行き、仕事をして、帰宅。休日はだいたい遊びに出かけ、それなりに自己啓発に努めていた。

しかし、会社での年次が進み、任せられる仕事内容が重みを増していくにつれ、私は言い知れぬ不安を抱えるようになっていた。「本当にこのままで良いのか？」

そんな時、会社の先輩からQBSの話聞き、縁あって入学することが出来た。

2010年4月、私を取り巻く環境は一変した。一般企業はもちろん、医師・弁護士・自治体職員など多種多様な人間が集まって、ある種の運命共同体として学び・語り・飲む。

海外MBA学生と海外でディスカッションをする。地元の経済人と席を隣にしてアジア経済の話をする。半年前には想像すらしなかった事だ。

正直、働きながらQBSで学ぶのはハードだが、QBSにはそれだけの価値があるし、毎日が異常な程に充実している。卒業まであと1年半。最初は長いと思っていたが、今は短すぎると感じている。とりあえず、これが私に起こった、分かりやすい変化だ。

## TOPICS

福岡産業振興協議会創立30周年記念事業 ビジネススクール・NPOによる

## 次世代リーダー育成合同公開講座

澤田秀雄社長講演会・QBS生らによるプレゼンテーション&amp;ディスカッション



10月17日、福岡市博多区の明治安田生命ホールにおいてハウステンボス(株)澤田秀雄社長を招いての講演、在校生を中心としたプレゼンテーション・パネルディスカッションを行いました。

福岡産業振興協議会(以下、「産振協」)はQBSの外部評価委員である小早川明徳氏が会長を勤められている経済団体であり、3年前から産振協が開催する福北交流懇談会にQBSからも参加して交流を深めています。今回、産振協創立30周年記念事業において「次世代リーダーの育成」をテーマにビジネススクールの特徴を活かしたイベントの実施依頼があり、実行委員として年明けから準備を進めてきました。このイベントの成功にはQBS在校生の多くの協力が必要のため5月の学生総会で参加を呼び掛けたところ、30名を超える在校生が自ら手をあげプロジェクトが発足し、講演、企画、会場、広報、会計、といったタスクに分かれ自主的に準備を進めてきました。澤田社長に講演をお願いすることが決まり、ハウステンボスで直接趣旨をお伝えしたところ「夢と目標をもって!そしてチャレンジせよ!」という演題となりました。ポスターの掲示や、BBIQモーニングビジネススクールで告知を行いました。開催1週間前には事前申込数が客席の1/4程度でした。そこで職場や知人への草の根声かけ活動や、博多駅前では早朝ビラ配りも行いました。

当日は朝から会場準備を行い、昼過ぎには澤田社長が到着。会場の入り具合だけが心配でしたが、開演時刻の13時には360名余の方々によって客席が埋めつくされました。澤田社長はHISやスカイマークの設立時の苦労話から、再建に取組まれているハウステンボスの秘策についてもお話ししました。次世代を担う若者に対しては、「しっかり描ききることができれば何でもできる」、また自らの経験から「海外旅行をたくさんして世界を知ることが大切だ」と熱弁されました。澤田社長の講演のあとは「九州が発展・成長する未来の創り方」のテーマのもと、QBS修了生の松清一平さんから「韓国のトリセツ」、QBS留学生



の張碩秋さんと許天小さんから「九州で楽しみ、学び、繋ぎ」、QBS在校生の澤田典典さんと田苗真代さんから「メディカルツーリズムと九州の未来」、K2BS坂本秀樹さんから「もしも九州が出島だったら」の4つのプレゼンテーションを行いました。プレゼン後はQBS在校生の段野陽輔さん司会のもと、澤田社長とプレゼンターを交えて九州の強み・弱み、未来についてさらに議論を深め、イベントは大成功に終わりました。

このイベントを通じ、様々な職種・立場で働くQBS生が、受身の学校の講義と違って共に考え・行動し、お互いにフォローし合いチームワークよく物事を作り上げていく姿に、改めてパワーを感じました。それとともに、プロジェクトの進め方についてもいろいろと学ばせて頂きました。集客についてはマーケティングの講義で学んだことの実践でしたが、ターゲット層へのリーチの難しさを身をもって学びました。最後に、産振協の皆様、QBSの先生方、QAN、在校生、学生第四係をはじめとする関係者の皆様、本当にありがとうございました。

福岡産業振興協議会30周年記念事業 実行委員  
楠元珠代、市川克、木部匡之(7期生)

平成23年度 九州大学大学院経済学府  
産業マネジメント専攻(ビジネス・スクール)  
特別選抜のご案内(平成23年4月入学)

《特別選抜募集概要》

人員/若干名

出願期間/ 1月14日(金)～1月20日(木)

募集要項の詳細内容は、九州大学ビジネス・スクールのホームページをご覧ください。

http://qbs.kyushu-u.ac.jp/



編集発行/九州大学ビジネス・スクール  
担当/QBS事務局  
住所/〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1  
電話/092-642-4278  
メールアドレス/bs@en.kyushu-u.ac.jp

●九州大学ビジネス・スクールに関するお問い合わせ  
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1  
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係  
TEL.092-642-4167  
ホームページ http://qbs.kyushu-u.ac.jp/

  
九州大学ビジネス・スクール  
Kyushu University Business School



TOPICS

QBS教員紹介

今回のQBS教員紹介は、永田晃也准教授です。



私は、QBS開設から1年後の2004年に教員に就任し、以来「イノベーション・マネジメント」と「知識マネジメント」の講義を担当してまいりました。2008年度から2009年度までの2年間は、文部科学省科学技術政策研究所の総括主任研究官に就任するため本学を離任しておりましたが、2010年4月に復職しました。

科学技術政策研究所は、我が国の科学技術・イノベーション政策の立案に資する理論的・実証的研究を推進している国立機関です。かつて私は同研究所の主任研究官として、政府研究開発投資の経済効果を予測するためのマクロ経済モデルの開発や、イノベーションの専有可能性に関する国際比較などのテーマに従事していたことがあります。その後、1998年度から2003年度までの間は、北陸先端科学技術大学院大学の知識科学研究科で、初代研究科長に就任された野中郁次郎先生の組織的知識創造理論を実証するための研究などに取り組みました。また、同研究科が日本のMOT教育を先導する理念を打ち出していたことから、早い時期にイノベーション・マネジメントや知識マネジメントに関する知識の体系化に取り組む機会を得ました。

先端大の研究環境はたいへん恵まれていましたので、尊敬する諸先輩からは「転職貧乏」になることを頻りにご心配いただきましたが、それを承知の上で私が九大に移動する気になったのは、ビジネススクールという場で高い向学心を持った学生を対象にMOT教育を実践してみたいと考えたからです。果たして、その期待は裏切られませんでした。QBSの最大の資産は確かに、1人ひとりの在学生・OBと、そのネットワークであるということを実感しています。

金沢の近郊に住んでいた頃から、私の趣味には能楽鑑賞が加わり、「伝統芸能における知の伝伝とコラボレーションに関する組織論的研究」というテーマで科学研究費補助金を受けたこともあります。大濠公園にも立派な能楽堂がありますが、あいにく足を運ぶ時間のほうがありません。

永田晃也  
(イノベーション・マネジメント、知識マネジメント)

QBS BOOKレビュー「この1冊」

今回のQBSブックレビューは、朱 穎准教授のおすすめの「この1冊」です。

『ソニー VS. サムスン』日本経済新聞社 張世進(2009)

昨年の11月末、韓国経済産業研究所の招聘によりソウルで開催された国際シンポジウムに「ゲストスピーカー」として出席しました。シンポジウムの目的は金融危機の後を脱む産業政策及び次世代成長のエンジンとは何かについて議論することでした。このような大きいイベントに「ゲストスピーカー」として呼ばれたのは初めてであり、大変不安な気持ちで仁川国際空港に到着しました。張世進先生にお目にかかったのはその日に参加した晩餐会でした。韓国を代表する経営学者の一人で世界的にも知られている著名な方ですが、まだ駆け出しの私に対して悠揚温和に話し掛けてくださる姿勢は大変印象深く感銘を受けました。

帰国後、早速張先生が書かれた『ソニー VS. サムスン』を読みました。本書は日本語の訳本が出版されたことに先駆け、既に英語・韓国語など世界各国で出版されていて、英語圏では高く評価を受けています。日韓のエレクトロニクス産業を代表するソニーとサムソン電子について創業から現在に至るまでの歴史を丹念に分析し、近年におけるソニーの低迷と、サムソン電子の急成長の要因を浮き彫りにした一冊です。



企業間における経営パフォーマンスの成否を探究する多くの研究は「戦略上の相違点」から議論を展開しているのに対して、本書はリーダーシップのあり方、さらに企業文化といった「組織内プロセス」及び、「経営者の行動パターン」に焦点を当てており、経営戦略上の優劣ではなく、戦略執行プロセスにおける両社の差異は経営成果に決定的な影響を与えたと分析しています。

本書を読んで、著者の緻密な分析力に魅了させられました。氏の研究は、有名企業の事後説明としてのインタビュー調査という手法を取らず、過去20年間に公表された様々なデータ・資料を丹念に付き合わせて、戦略・組織・リーダーシップという三つの要素間における複雑な関係の絡み合いを描き出し、日・韓国両国を代表する大企業の盛衰プロセスを冷静かつ明晰に分析しています。

本書は、抽象論で派手なメッセージを打ち出そうとする時流のビジネス書ではなく、経営の本質を堅実な分析手法によって分かりやすく明快に物語っています。これからの経営を担うビジネスパーソンには、是非読んでほしい一冊です。

朱 穎  
(アジアの産業と企業、中国ビジネス)

第13回 ICABE学生交流プロジェクト ソウル訪問



2010年8月27日～29日の2泊3日、15名(教員2名、7期3名、8期10名)でソウルを訪問しました。開港からわずか10年足らずでアジアのハブ空港となったインチョン空港を体感したく、空港内でフォワーダー事業を行っている「オリエント SHIPPING」を最初に訪問。大韓航空第一貨物ターミナルでは、効率的なロジスティックスを提供する巨大なETVシステムを見学しました。次にアンヤンの「DONG A ELETEK Co., Ltd」を訪問。TFT液晶パネルのエイジングシステム・検査機など、サムソンやLGの品質管理を支える実際の装置を見学しました。売上の6割がLG向けで、LGの中国進出にあわせてグローバル展開を始め、現在は中国からの売上が最も多いとのことでした。2日目は通信機器や家電製品を遠隔でテストできるMAT (Machine Auto Tester) ソリューションを提供する2003年創業のベンチャー企業「LINK GENESIS CO.ltd.」を訪問しました。今年に入ってLG向けの携帯電話の海外向けアプリケーション開発の為に、18人から55人に社員数を増やすなど、成長著しい若い会社でした。

TOPICS

2日目午後は、今回のメインイベントであるKAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) を訪問。MBAカリキュラムの学生は欧米の金融トップ企業を目指し、フルタイムで学んでいました。交流行事では、KAISTの金教授、QBSの朱准教授による講義の後、KAISTから「京都スタイルの経営」、「投資銀行の成長展望」、QBSからは「環境ビジネス」、「世界の水ビジネス」の計4チームによるプレゼンを実施し、活発な意見交換を行いました。交流行事終了後の懇親会は夜遅くまで続き、交流を深めました。KAISTの学生達とは帰国後すぐに“Facebook”で繋がりましたし、金先生は来年QBSで教壇に立たれる予定とのこと。今回は交流のスタートでこれからも続けていきたいと考えます。

MBA学生との国際交流を行うと同時に、「Global Logistics」や「国際経営」などの講義で学んだ知識を自らの目で確認することにより、理解が深まった貴重な体験でした。

木部匡之(7期生)



PicoCELA株式会社がIT企業大賞を受賞

QBS3期生の井上聡志です。昨年、福岡市ステップアップ助成事業で弊社が最優秀賞を受賞しましたことを本ニューズレターにて掲載頂きましたが、本年も幸いな事に、10月28日、財団法人九州先端科学技術研究所の15周年を記念し設けられたIT企業大賞を受賞致しました事をご報告申し上げます。本賞は「地域の技術を用い、製品化/事業化に成功し、地域経済に貢献している」というのが採択基準とのことで、弊社としましては、まだ事業半ばの状態ではございますが、IT部門にて受賞する事が出来ました。もともと弊社は九州大学の古川教授が発明した技術を事業化する形で始まった企業であり、福岡県、地場企業の皆様と連携し実施させて頂いたキャナルシティ博多での大規模実証実験(WiFiを活用した屋内3次元位置情報測位システムの構築)、大手メーカーと連携し大分県竹田市にて歴史資料館のワイヤレスブロードバンド化等が地域での取り組みとして評価されたのだと考えています。現在では、ビジネスとしましては完全に首都圏中心となってしまいましたが、地域という切り口では、継続して天神地下街、九州国立博物館等で最先端の試みを実施していき、事業の拡大を目指していく予定です。国内外問わず、ビジネスパートナーとしてQBSのOBの方々は大変お世話になっておりますので、弊社としましては事業を成長させていく事で、ご期待に添えればと思っております。



今年3月までQBSで過ごした2年間はハードでしたが、この経験は私の視野を拡大し、行動や考え方に大きな影響を及ぼすものとなりました。私は建築系のデザイン事務所をパートナーと営んでおり、最近特に事業形態・組織について、より良いかたちを目指し再形成中です。QBSで学んだ知識や、仲間からのアドバイスは、ビジネス自体だけでなく、これらの取り組みでも役立っています。そして、この基礎になっているのが、心から尊敬できる友や師とのQBSを通じての出会いです。多様なバックグラウンドをもった仲間と50-50の友となり、高い志を持って必死でがんばっている彼らの姿を見て、自分も負けられないと奮闘。

「臆するな。相手のポジションで言辞を変えるな。自ら信じることを語れ。」とは、私が尊敬するQBSの師の言葉。「自分は師の言葉を実行出来ているか?」と己に問うと、己の志の低下を感じて、「友のがんばる姿」を思い出す。これを常に実行できる環境を与えてくれたQBSに感謝しています。

井上聡志(3期生)

修了生紹介



酒見 寿代さん(1期生)  
所属  
CREA Partners(株)  
代表取締役社長

税理士として経営者の方々力になるために、しっかりと経営知識を学びたいと思い、QBSに入学しました。けれど在学中に、それまで考えもしていなかった、何の知識も経験もない産学官連携事業や人材育成事業を柱とする会社を設立しました。今、振り返れば、何とも無謀なことをしたと思うのですが、QBSで高い志と熱い思いを持った先生方や仲間に出会えたことが、私に何ができるのか、何をすべきかを真剣に考えるきっかけをくれました。

会社設立から約6年半、事業で関わる方々のことをただ一生懸命に考え努めてきましたが、果たしてどれ位お役に立てているのか、必要とされる存在になれているのか、正直分かりません。何度まで壁にぶつかり、自身や自社の無力さ・未熟さを痛感し、「もうダメだ」とあきらめかけたことは数えきれません。でも、それでも前へ進もうと思えるのは、QBSで学んだことが経営の知識やスキルだけではなく、信念やビジョンを持つこと、挑戦し努力し続けることの大切さだったからだと、今改めて感じています。



河本 敬嗣さん(6期生)  
所属  
デザインニコ 一級建築士事務所

今年の3月までQBSで過ごした2年間はハードでしたが、この経験は私の視野を拡大し、行動や考え方に大きな影響を及ぼすものとなりました。

私は建築系のデザイン事務所をパートナーと営んでおり、最近特に事業形態・組織について、より良いかたちを目指し再形成中です。QBSで学んだ知識や、仲間からのアドバイスは、ビジネス自体だけでなく、これらの取り組みでも役立っています。

そして、この基礎になっているのが、心から尊敬できる友や師とのQBSを通じての出会いです。多様なバックグラウンドをもった仲間と50-50の友となり、高い志を持って必死でがんばっている彼らの姿を見て、自分も負けられないと奮闘。

「臆するな。相手のポジションで言辞を変えるな。自ら信じることを語れ。」とは、私が尊敬するQBSの師の言葉。

「自分は師の言葉を実行出来ているか?」と己に問うと、己の志の低下を感じて、「友のがんばる姿」を思い出す。

これを常に実行できる環境を与えてくれたQBSに感謝しています。